|  |  |
| --- | --- |
| 第12回災害対策委員会議事録 | |
| 日　時 | 平成29年9月9日（土）13：30～15：20 |
| 場　所 | 榊原病院　第一研修室 |
| 参加者 | 辻（委員長）、東（桑名ブロック）、長谷川（四日市ブロック）、中村（鈴鹿亀山ブロック）、福澤（津ブロック）、岡、高柳（松阪・伊勢ブロック）、西村（熊野ブロック）、三上（オブザーバー）  欠席：藤岡（伊賀ブロック） |
| 議　題 | １．各ブロックの取り組み報告  ２．自殺防止研修「いま知っておきたい！被災された方への接し方～地域支援に必要なこと～」の感想  ３．今年度の活動、研修について  ４．その他 |
| 議事内容 | １．各B（ブロック）からの報告  桑名B：自立支援協議会精神部会で情報共有。  四日市B：メーリングリストを活用できないか検討中。四日市ブロックのMLは個人携帯が多い。  鈴鹿B：次の役員どうしようか検討中。2年任期で6月交代だが、引き継ぎができないでいる。一応、鈴鹿さくら病院がうけていただく予定。  12月に鈴鹿の方でPSW協会の実践報告会がある。ご協力よろしくお願いしたい。  津B：特になし。病院単位では訓練に参加。  松阪B：特になし。  ２．自殺防止研修「いま知っておきたい！被災された方への接し方～地域支援に必要なこと～」の感想  ・地震、津波の被害に加え、原発の被害についてボリュームがあった。  ・想定以上のものが来ると思っていた方が良い。  ・具体的な行動としては、普段のネットワーク作りが大事と感じた。  ・実際、災害対策委員として何ができるのか、まずは目の前の被災した職場のことを何とかしなければならない⇒協会員への意識づけ、雰囲気づくり  ・会員さんへの動機づけは、今後の研修会で  ・できることは何か。準備しておかないといけないことはたくさんあるはずだが、想定外のことが起こるということを前提にすれば、「意識づけ」がもっとも重要になる。  ・普段からのコミュニティづくりが大事  ・「心のケアとは生活支援だ。」という言葉が印象的だった。講師は心理士ではあるが、やっていることはほとんどソーシャルワ－クをしていた。  ・事前準備が全員無事であるという前提で考えると何も機能しない。  ・意識づけの部分。災害対策委員会の役割としては、平時からの会員に対する意識づけ。  ・緊急時に機能する連絡網づくり（パソコンは起動できないと考えた方が良い）。  ・連絡先等は、紙ベースで用意しておく方がいざという時には強い。  ・病院から病院へ避難するときは、国からは観光バスが用意される。リクライニング10センチしかできない。寝たきりの患者さんをそれで運ばねばならない。  ・台風など普段の災害時で無事であっても「アイムセーフ」の発信を、メーリングリストを活用してやっていくことが必要。  ３．今年度の活動について  意識づけの部分をどう伝えていくか  ・HUGの研修  ・いざ災害が起きたときどうなるかのイメージづくり  　　ゲリラ豪雨が一日中続いたらどうなる？  　　○○メートルの津波がきたら？  ・自殺対策研修のエッセンスを伝達講習  桑名市民会館　大会議室：（部屋代1万8千円）  ⇒不安をあおって意識をつける。  ⇒HUGの講師にきてもらう（2万円ポッキリ）  　　まずは講師に確認（2時間以内は要相談、推奨２～３時間程度）→辻委員長  ・DPAT事務局の方がお話ししてもらう  琉球病院の医療観察PSWが東京にDPATとして出向している。  ソーシャルワーカーが有事・平時にできること  ⇒来年あたりに来てもらうか  ４．その他  ・ミサイルのニュース等で精神の人で揺れる人がいるが、その対応。  ・次回議題  HUGして、研修時にどのように伝えていくか検討（伝えたい内容は各自考えておく）  次回の災害対策委員会でHUGの演習をする。　　講師について検討  3月の例会は、平成30年3月11日（日）桑名市民会館　大会議室 |
| 次　回 | 平成29年12月2日（土）14：00～　榊原病院 第一研修室　　終了後、意見交換会 |